

令和2年度のスタート はじめが肝心です

～認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う 温かい学級を目指して～

今年度、多くの学校園で支持的風土の醸成に向けた真摯な取組が行われたことをたいへんうれしく思います。

これまで「テロワール」では、支持的風土の醸成で大切にしたいことを発信してきました。年度当初には、支持的風土について以下のようにもお伝えしました。

- ・子どもたちが安心して、楽しく、伸び伸びと学校生活を送るために、支持的風土は欠かせません。望ましい人間性は、支持的風土の中で養われていきます。
- ・支持的風土は、「何でも許す、なれ合いの風土」ではありません。温かい中にも「相手の考えを尊重したうえで遠慮なく質問や意見を出し合い、より高みを目指していく」という厳しさももちあわせています。

「テロワール」1・2号より抜粋

支持的風土の醸成では、温かい中にもより高みを目指す子どもたちの自主的で自治的な態度の育成を図ることも目指しています。だからこそ、私たち教師も温かさの中にも厳しさをもち合わせた指導支援が求められています。

令和2年度のスタートが近付いてきました。今年度の学級づくりを振り返り、4月からの学級づくりを考えてみませんか？そして、来年度も子どもたちが

「あなたがいてよかった」「みんながいてよかった」「この学級でよかった」と実感できる学級づくり、支持的な風土の醸成に取り組んでいきましょう。

本号では、新年度の学級開きの場面で、「認め合い、助け合い、期待をかけ合い、高め合う 温かい学級づくり」で大切にしたい2つのことをお伝えします。

支持的風土の醸成については、令和2・3年度の「学校園教育の重点」でも重視されています。



その1 子どもと出会う前に…

「子どもとの初めての出会い、第一印象が決め手となる。」

子どもたちとの初めての出会いを温かく楽しい時間にして、子どもたちに「この学級でよかった」「また明日も来たい」と思わせたいものです。

まずは、子どもたちを教室に迎える前に、環境を整えることが大切です。整理整頓はもちろんですが、例えば、黒板に子どもをやる気にさせる絵やメッセージを書いたり、学級だよりを拡大して掲示したりするなど、担任の思いや願いを自分の言葉でしっかりと伝えることが大切です。

次に、子どもたちとの出会いの場面を想像して、子どもたちを笑顔にする活動を考えます。例えば、「担任が率先して得意なことを披露する」「子どもたちが喜びそうなことを担任と一緒にやってみる」「子ども同士が自然に関わり合えるようなゲームをする」など、出会いの場面を事前に演出しておきます。

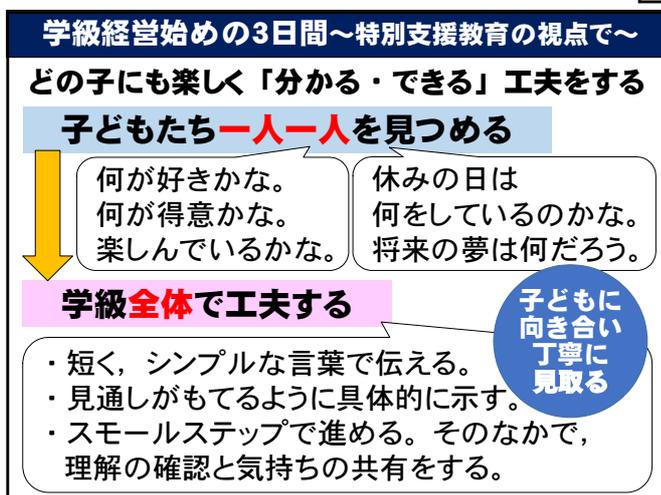
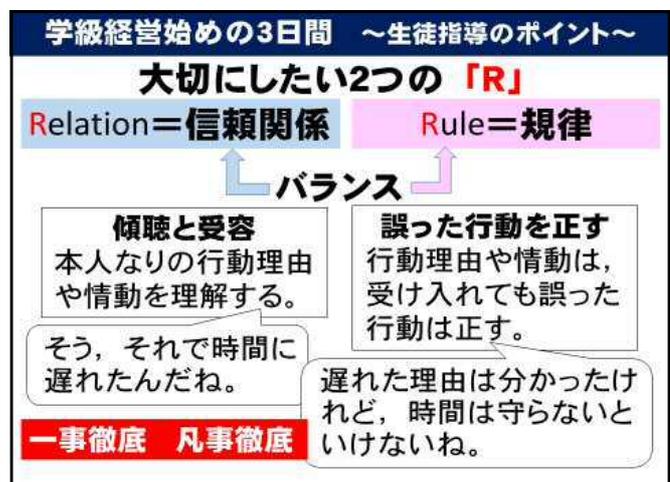
その2 子どもとの出会いの中で…

「学級経営がどうなるのかは、始めの**3日間**で決まる。」

初めての出会いの場面では、担任が板書のメッセージや学級便りなどを使って、どんな学級にしたいのかをきっちりと伝えます。例えば、学級への期待、長期的な目標、はじめを許さないことや多様性を認めることなどを伝えます。ここで忘れてならないのは「**ルール**」もしっかりと伝えることです。ルールの内容は、学年や学校で相談しておくといいです。担任の期待や目標などに関わる学級のルールも必要です。

子どもたちに話すときには、「私は、～するとうれしくなる」「私は、～を見たり聞いたりすると気分が悪くなる」とアイメッセージで伝えると効果的です。

図に示した「生徒指導のポイント」と「特別支援教育の視点」も参考にして、学級経営を進めてください。



新年度、子どもたちはいいスタートを切りたいと期待に胸を膨らませています。しかし、それと同じように新しい人間関係や学校生活の変化に不安を抱いている子どもも少なくありません。いい1年とするためには、そんな子どもの気持ちに徹底的に寄り添いながら学級開きを進めましょう。

次号は、「年間の見通し」についてです。